

令和5年度 第6回上郷地域会議 会議録

- 日 時 令和5年9月19日（火） 午後7時から8時30分まで
- 場 所 上郷交流館 2階 ふれあいホール
- 出席者 委 員 : 15名（欠席 1名）
安田副市長
企画政策部 : 辻部長
企画課 : 丹羽副課長
都市計画課 : 西岡担当長
地域振興部 : 後藤部長
交通安全防犯課 : 中尾課長、福岡副課長
上郷交流館 : 太田交流館長
事務局（上郷支所）: 近藤支所長、下川副支所長、小船担当長、伊藤主査

■次 第

「豊田市民の誓い」唱和

- 1 会長あいさつ
- 2 提言及び諮問
 - (1) 提言書の提出及び諮問書の授受
 - (2) 副市長あいさつ
 - (3) 提言内容及び諮問内容の説明
 - (4) 意見交換
 - (5) 集合写真撮影
- 3 報告事項
 - (1) 令和5年度第5回上郷地域会議の会議録について
 - (2) 第10期地域会議委員の選考について
 - (3) 上郷地域バスについて
- 4 事務連絡
 - (1) 費用弁償費の押印廃止について
 - (2) 次回の地域会議日程について

■議事（要約）

- 1 会長あいさつ 省略
- 2 提言及び諮問
 - (1) 提言書の提出及び諮問書の授受 省略
 - (2) 副市長あいさつ

本日は提言書を御提出いただきありがとうございました。
今回の提言は、交通安全と防災という地域住民の命と財産を守るというまちづくりの中で最も大事な分野となっている。
上郷地域では、交通安全もちろん重要であるが、防災上の観点からいっても

洪水が心配な地域であるうえに、地震の面でも南海トラフ地震では震度6強が想定されており、市内でも地震の揺れが大きい。また、地盤が柔らかい部分もあり液状化の懸念があり、他の地域以上に防災面の配慮が必要である。そういったことを含めた提言をいただき非常に感謝している。

また、今回諮問をさせていただき第9次総合計画（以下「9総」）についても皆さまの御意見をいただきながら作成していきたい。総合計画は、市の中でも基本的でかつ最上位に位置する計画であり、予算編成方針や施政方針も総合計画に基づいている。現在の第8次総合計画（以下「8総」）は、自分が担当者として「つながる つくる 暮らし楽しむまち・とよた」を将来都市像に掲げ、人の視点をもった姿を設定した。それ以前は、都市全体で産業・文化・交流を大事にする方針を採っていた。8総の重点施策の最も課題であった超高齢化社会の適応について、市の組織として、市民活動を始め文化・芸術・スポーツ等、まずは生き生きと暮らすことができるように生涯活躍部を創設した。また、保健部を設置したり、介護予防として、「ずっと元気プロジェクト」に取り組んできた。万が一介護状態になってしまった場合でも、福祉部において訪問医療・訪問看護や地域包括支援センターの配備等の体制を整えてきた。

9総では違う課題が出てきており、皆さんと一緒にまちづくりについて考えていけるといいなと考えている、ぜひ今日はそんな意見交換ができたらと考えている。本日はよろしくお願ひします。

(3) 提言内容及び諮問内容の説明

提言内容について、上郷地域会議から提言書及び説明資料に基づき説明した。諮問内容について、企画課及び都市計画課から「第9次豊田市総合計画の方向性について（案）」に基づき説明があった。

(4) 意見交換

【質問・意見】

- ・上郷地域は矢作川、家下川に囲まれた水害に弱い地域で、この環境は自分の子どもや孫世代、それ以降の世代にずっと続いていく。上郷地区では、水害の際に想定される避難者数が約12,000人に対して、避難場所の収容人数は約1,600人と2割にも満たない。地区内の既存の高層建築物と公的な協定を結び、防災マップを広げたときに、自分の家の近くに避難所だけでなく、協定を結んだ緊急退避所をマップに表示していかないと、いつ起こるか分からない災害に対して行動できない。

⇒（副市長回答）

この地域の高層建築物の建築数は把握していないが、まずは水平避難が基本的な方針であり、万が一逃げ遅れてしまった場合に垂直避難をしていただきたい。地域事業者との協定について、心配な地域では独自に事業者と協定を結んでいるため、市としては協定のひな型の提供等の支援をさせていただいており、地域と事業者との話し合いを進めていただけるとありがたい。

また、あらかじめマイタイムラインという水平避難の行動のきっかけとなるものを自分自身で作成して逃げ遅れのしないよう備えていただきたい。

現在、市では有事の際に上郷サービスエリアや刈谷ハイウェイオアシスに逃げられるようNEXCOと調整している。まずは逃げるということが重要なので、

市から発信している情報から逃げるべき状態になったら、仮に避難が空振りになったとしても、例えば、逃げがてらサービスエリアで食事をする感覚で逃げてもらいたいと思う。

令和5年6月2日の大雨の際、矢作ダムの緊急放流という話もあった。市としてダムや河川の状況を的確に伝えられる方法を検討しており、例えば携帯会社と連携をとって緊急情報を流す、防災ラジオで流す等を考えている。今は天気予報の精度も高まっており、それに基づいた情報提供や指示を出しているため、見過ごすことのないようにお願いしたい。

余談になるが、陸上自衛隊でこの地域の師団長だった方から東日本大震災の際の救助について話を聞く機会があった。その中で近所の方との助け合い、共助が非常に大事だという話が合った。自衛隊や消防も体制は準備しているものの、すぐに来てくれないし、状況によっては来られるかも分からないため、普段の付き合いの中で地域のつながりを培い、自分たちで助け合えるよう連携を取っていくのが重要であるという話であった。提言の内容は受け止めて、市としても準備させてもらうが、地域の力は災害には重要なので、ぜひお願いしたい。

- ・液状化現象に対して、豊田市として土地改良等の対策に取り組む計画はないか。また、最近の災害状況をみていると、想定が悪い方向に外れているため、どう取り組んでいくか。

⇒（安田副市長回答）

液状化の専門家ではないため的確に答えられないが、液状化に対して対策を取るというのは聞いたことがない。個々の対応でも難しい、そんな大きな地盤を作るわけにもいかない、地盤があればパイルを打てるが、想定外のことについて、洪水については1,000年に1回程度の確率で発生する規模の大雨に対応したハザードマップを作成し配布している。地震については南海トラフ地震に対するハザードマップをもう一度見直すことを検討している。質問があったように想定を超える災害が各地で発生しているため、それらを踏まえて検討していきたい。

- ・令和5年8月23日に大東建託株式会社が発表した「街の住みこちランキング2023全国版」によると長久手市が2位となっており、長久手市は商業施設や広大な公園に恵まれ、子育て世代の評価が高く、総合評価でも行政サービス、生活利便性、親しみやすさが評価されている。豊田市は残念ながら300位にも入っていなかった。豊田市はトヨタ自動車株式会社があり、車のまちとして全国的に知られている一方で、まちの住みこちとしては近隣の刈谷市、安城市よりも下位の評価となっている。このような現状をどのように受け止められており、まちの住みこちの上位ランクを目指すための取組があれば教えていただきたい。

⇒（安田副市長回答）

こういったランキング調査はつぶさに確認して、反省する点があれば謙虚に受け止めるが、ランキング調査は様々なものが存在し、「全47都道府県幸福度ランキング」では、豊田市は中核市 No.1 である。豊田市は産業が発展しており自

然も豊かで、課題もあるが総合的には非常に恵まれたまちであると認識している。ただ、そこをどう評価するかは、市民の皆さま一人ひとりであり、その中で、総合計画を作っていきたい。

- ・この地域の配水施設である豊田市中切水源配水場があるが、浸水害で配水場が水没した場合、どのようにして各家庭に配水されるのか。配水できず、給水車も地区内に入れない場合、どのような方法で配水されるのか。

⇒（安田副市長回答）

配水場が水没し水道から配水できない場合、回復するまでは給水車で配水することになる。また、給水車が来られない状況も考慮して、水は各家庭で最低3日間分、できれば1週間分の備蓄をお願いしたい。

- ・家下川にある樋門について、もし災害が起こり、土石や市民が家下川に流されてしまった場合に、あの施設で水だけを流すことができるか。

⇒（都市計画課西岡担当長回答）

以前、河川課に所属していたため回答させていただく。流木等いろいろな物が流れてくる中で水だけを流すというのは難しい。豊田市の下水施設にはスクリーンというゴミを流さず水だけを流す施設が市内に数か所あるが、大雨が降ると、スクリーンを上げて施設が壊れないように、安全を確認しながらすべてを流している。御質問いただいたように水だけを流すには、市内全域に下水道を整備するといった対策が必要になるが現実的ではない。

- ・矢作川の整備について、対岸の岡崎市側の整備が進んでいるが、こちら側は手付かずの状態である。昔は、岡崎城を守るために畝部側の堤防を弱くして、岡崎城側に水が流れないようにしていたと聞かすが、畝部側の工事が遅れているのではないか。

⇒（安田副市長回答）

矢作川の整備は下流から上流に向けて行われている。歴史的には岡崎を守るという話があったかもしれないが、今は下流から順次整備している。

- ・提言書の中で「学校を通じた交通安全教育の継続した実施」を市へ提言させていただいたことについて、小学校では交通安全教室を毎年1回はやられていると思うが、ここにぜひ追加していただきたいのが、ダンプカーやバス等の大型車両の死角についての講習していただきたい。また、高校生や大人の自転車マナーも良くない。

⇒（交通安全防犯課中尾課長回答）

年1回の交通安全教室は、小学校では1年生と4年生、中学校では1年生に対して、池田町の交通安全学習センターで行っている。高校生についても県立学校の1年生に対して交通安全学習センターで自転車マナー講習を行っている。大型車の死角について、現在のカリキュラムには入っていないが、交通安全学習センターには大型車も用意しているため、カリキュラムによっては大型車の死角についても学ぶことはできる。

(5) 集合写真撮影 省略

3 報告事項

- (1) 令和5年度第5回上郷地域会議の会議録について
- (2) 第10期地域会議委員の選考について
- (3) 諮問について

上記について、事務局から報告がされた。

4 事務連絡

- (1) 費用弁償費の押印廃止について
- (2) 次回の地域会議日程について

◆次回会議開催

◇令和5年度 第7回地域会議

と き：令和5年10月17日（火） 午後7時から

ところ：上郷交流館 2階 ふれあいホール